

# 考え方を換えよう！新しい認知症観



新しい認知症観とは認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になってからも、一人ひとりが個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができるという考え方です。

**これまでの認知症観**  
(他人ごと、問題重視、疎外、絶望)

- ①他人ごと、目をそらす、先送り
- ②認知症だと何もわからない、出来なくなる
- ③本人は話せない / 声を聞かない
- ④おかしい言動で周りが困る
- ⑤危険重視
- ⑥周囲が決める
- ⑦本人は支援される一方
- ⑧認知症は恥ずかしい、隠す
- ⑨地域で暮らすのは無理
- ⑩暗い、萎縮、あきらめ、絶望的

**新しい認知症観**  
(わがごと、可能性重視、ともに、希望)

- ①わがごと、向き合う、備える
- ②わかること、できることが豊富にある
- ③本人は声を出せる / 声を聞く
- ④本人が認知症バリアの中で一番困っている。本人なりの意思がある。
- ⑤あたりまえごと（人権）重視。自由と安全のバランス
- ⑥本人が決める（決められるように支援）
- ⑦本人は支え手でもある。支え-支えられる関係
- ⑧認知症でも自分は自分、オープンに
- ⑨地域の一員として暮らし、活躍
- ⑩楽しい、のびのび、あきらめず、希望を

出典：令和6年度 認知症地域支援推進員研修資料

# 認知症を知る・支える・繋がる



## 地域包括ケア漫画「みんないつかは年をとる」

埼玉県では、「地域包括ケアシステム」や「認知症」などについての理解を深める地域包括ケア漫画「みんないつかは年をとる」を作成しました。高齢になっても住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるよう、認知症のある人への誤解や接し方、家族や地域の見守りについて、1巻から11巻の漫画で楽しく理解することができます。

県ホームページ▶



出典：埼玉県福祉部地域包括ケア課「みんないつかは年をとる」⑥

毎年9月は「アルツハイマー月間」、また毎年9月21日は「世界アルツハイマーデー」です。認知症になっても、住み慣れた町で自分らしく暮らし続けたい。その思いを支えるのは、家族だけでなく地域のみならず一人ひとりの理解と協力です。  
国では、「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」に基づき、認知症に関する施策を進めていくための認知症施策推進基本計画を策定しました。その中で、「認知症になっても、認知症になっても一人ひとりができること、一人ひとりができること、やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができる」という「新しい認知症観」を示しました。認知症の人を単に支える対象としてとらえるのではなく、認知症の人を含めた一人ひとりが、その個性と能力を十分に発揮しながら、共に支えあつて生きることが重要です。認知症は進行性の病気ですが、早期発見、早期治療で症状の進行を緩やかにしたり、場合によっては症状が改善する可能性もあることが分かってきました。「ひよとして？」と思つたら、まずは相談してみましょう。今回の特集では認知症の正しい理解と、町の取り組みをご紹介します。

### 認知症検診を受診して下さい！

町では、認知症の早期発見・早期治療のため、満70歳と75歳の方を対象に認知症検診を実施しています。受診票は、令和7年6月に郵送でお届けいたします。検診は無料ですので、対象となる方は、ぜひこの機会にご自身の状態をチェックしてみてください。

■令和7年度実施期間  
令和7年6月1日(日)～12月25日(木)

#### ①医療機関を予約・受診

#### ②認知症検診チケットによるスクリーニング検査

#### ③検診受診後

検診のお知らせと共に送付している「認知症検診受診者の方へ」を記入の上、令和8年1月9日までに、町地域包括支援センターまで返送してください。

# 「認知症」と向き合う現場の声を聴く



愛の家グループホーム鳩山 施設長  
銅 直紀 さん

平成26年メディカル・ケア・サービス株式会社に入社。令和5年から愛の家グループホーム鳩山に在籍し、埼玉県知事から令和元年度に介護の魅力PR隊に任命され、各地で講演会などにも出演。



ニュータウンふくしプラザ  
むらおか みつこ  
村岡 満子 さん

13年前からニュータウンふくしプラザで勤務。今年度には鳩山町認知症地域支援推進員に任命。認知症サポーター養成講座のキャラバンメイトも務める。

普段から認知症の方やそのご家族と関わり、を務めるキャラバンメイトでもあるお二人

鳩山町の認知症サポーター養成講座で講師にお話を伺いました。

ニュータウンふくしプラザではどのような取り組みを行っていますか？

地域の方がご自分で参加できるサロン活動を行っています。ボランティアの方が中心となって来所された方のお話を伺ったり、体操や音楽、夏の時期にはごも向けの学習支援のサロンも行っていきます。  
また、相談も受け付けており、さまざまな相談もお受けしています。受けた相談を元に必要に応じて関係機関に繋がります。いきなり相談という形はハードルが高い方もいらっしゃると思うので、サロンを通して相談し

認知症の方と関わる際に普段から意識していることは？

認知症だからといって特別意識していることはありません。一人のひととして接しています。その人が認知症だからではなく、お話が好きな人、集団行動が苦手な人など、その人それぞれの個性や性格を尊重してそれに合わせて接しています。  
また、人によっては忘れてしまう程度も変わるので、会話の中で言葉が省かないようにいつも丁寧に説明しています。一回言ったからではなく、同じことを何度でも説明しています。

やすい雰囲気づくりを目指しています。  
相談者の方に安心してもらうためには？

漠然とした不安を持っている人、どのようなところに行ったら良いのかわからない人、一人ひとりの話をよく聞くことを大切にしています。  
不安を抱えてここに相談に来ている方なので、自分でも何を相談したいのかわからなくなる人も多いです。まずは、よく話を聞いてその人が本当に困っていることを見極めるようにしています。また、家族だけで抱え込まず、行政やふくしプラザのような機関、友人や他の人に相談することが一番大切です。周りの方の理解と協力を求めることも大事ですということも伝えていきます。

認知症について知ってほしいことは？

認知症になると本人がまず気付くことが多いです。本人が一番不安だということを理解して、周りの方には寄り添ってほしいです。  
また、認知症医療機関の早期受診を勧めてはいますが、受診までの葛藤はあると思います。無理やり受診するのではなく、まずは、その時の

安心して過したつもりでもうため関係作りとは？

嫌なことは記憶に残りがちなので、自分がされて嫌なことほしくないというのを心掛けています。単に介助をしないということではなく、担当者を変えたり、時間を置いて対応する等、利用者さんが嫌な気分にならずに過ごせる方法を日々模索しています。

認知症の方との関わりの中で心に残っている出来事は？

ある時、業務で掃除をしていた際にテレビで「あなたの生きがいは何ですか」という内容が放映されていました。近くにいた利用者さんに「あなたの生きがいは何ですか」と聞いたところ、はにかみながら「お兄ちゃんたちがね、毎日元気でここに来てくれていることだよ」と言われたことです。10年前の出来事ですが、今でもとてもうれしいです。

認知症の方と関わるうえで地域や社会に伝えたいことは？

私は認知症をコロナに例えています。なる人もいれなければならぬ人もいて、軽症で済む人もいれば重症になってしまう人もいます。認知症も同じです。

気持ちや周りの人が受け止めることが大切です。  
認知症は誰でもなりうるもので、その人らしさは失われません。否定をするのではなく、肯定する気持ちを持つことや「ダメ」より「できたね」という言葉が増えたらいいなと思います。

認知症の方は今まで出来ていたことが出来なくなったりしますが、一つできなくなったらと言って全てが出来なくなるわけはありません。周りで見ている人は心配で手を出さずしてしまつてもありますが、ゆっくり見守ることが大切です。困ったときに手伝うくらいさりげない支援が丁度いいと思います。

認知症の症状もその人の個性です。認知症は特別なものではないことを色々な方に知ってほしいです。



▲ニュータウンふくしプラザで行われたイベントで活躍するボランティアの皆さん



▲愛の家利用者の方と銅さん。ゆっくり大きな声で話しかけます。

す。コロナと同じで初めは何もわからなくて恐怖を感じていましたが、知識があれば怖くないです。偏見を持たないことから始めてほしいと思います。認知症の人を見かけても「あの人が変だな」とは思わず、「あの人大丈夫かな」と思うようにしてほしいです。

認知症になったからと言って何もできなくなるわけではありません。悲観的にならず、早め早めの対応が大切なので、早期受診を推奨しています。認知症を認めなくなつたり、隠してしまつたりすると、どんどん認知症が進行してしまいます。家族で抱え込まずに、行政や地域包括支援センターなど色々な人に相談したり、頼ったりしてほしいです。

# みんなで支え合い、住み慣れた町で いつまでも安心して生活できる地域づくり

「ご本人もご家族も支える」  
ご家族やお知り合いが認知症かと思ったり、早い段階で行政にも相談してください。ご家族にも頼れる人がいることを多くの人に知ってほしいです。認知症の方ご本人もご家族も地域みんなで支え合います。  
認知症の方も楽しく明るく生きられる鳩山町を作りたくと思っています。認知症への理解を深めるための認知症サポーター養成講座への参加など、皆さんには様々な活動にご協力をお願いします。

認知症を正しく理解し、日常生活の中で認知症の方やその家族を温かく見守り、手助けする応援者となるための講座です。町内の福祉施設の方などにキャラバンメイトの資格を取っていただき、講座を行っています。町内には現在7人のキャラバンメイトの方がいて、昨年度はこの講座を受講し、198人の方が認知症サポーターになりました。  
また、鳩山町では、様々な方が認知症について学び、認知症の方やそのご家族を支える認知症サポーター

認知症は年齢、性別関係なくなる身近なものです。家族だけで抱え込まないで、いろいろな人を頼ってほしいと思います。家のことを話すのは抵抗があるかもしれませんが、一歩踏み出して相談に来てほしいです。  
また、認知症だからと言ってなにかも忘れるわけではなく、感情も記憶もあります。批判的な言葉を言わないことを心がけて欲しいです。少し忘れっぽい、ちょっと怒りやすいなどその人の特徴が増えただけです。その特徴をみんなで知って支え合っていくことが大切です。

認知症初期集中支援推進事業をはじめ、認知症地域支援推進員等の設置、認知症サポーター養成講座など認知症の方やそのご家族に向けた取り組みを行っています。  
その中でも特に力をいれているのが、手作業の会です。閉じこもり気味になってくる高齢者の方に対して、手作業（作業療法）を通して交流の機会と外出の機会を作っています。主にボランティアの方が中心となり、自由に活動を行っています。

認知症は誰でもまじりこむもの

町で行っている取り組み



## 認知症に関する町の取り組み ～地域の支援や相談窓口～

認知症に関する不安や気になることがあれば、一人で悩まずにご相談ください。  
下記のイベントや相談窓口の他にも様々な支援がありますので町ホームページをご覧ください。  
だくか、町地域包括支援センターにお問い合わせください。

■問合せ 町地域包括支援センター ☎ 296-7700

### 町社会福祉協議会 総合相談支援窓口

☎ 298-5772

福祉の総合的な相談窓口として、さまざまな相談を受け付けています。「どんな制度を利用したらよいかわからない」「どこに相談したらよいかわからない」ときなど、ご連絡ください。町社会福祉協議会にて相談を受け付けています。

### 認知症ケア相談室

☎ 296-7677

在宅で認知症の介護をされている家族介護者等に対して、認知症の介護技術や方法についての相談に応じます。  
介護者における認知症の介護技術や方法に関する悩みもさまざまです。  
特別養護老人ホームの現場で数多くの認知症の方に対応している「認知症ケア相談員(介護福祉士)」にお気軽にご相談ください。鳩山松寿園東館にて相談を受け付けています。

10/18 (土)

### かいごフェア

介護に関する体験、試食、相談、講演会などすべて無料で行えます。ぜひご参加ください。(講演会は事前申込。それ以外は出入自由)  
時間 午前10時～午後3時  
講演 10月1日(水)から事前申込受付を開始します。(各公演先着30人)  
○介護食について(麻見江ホスピタル) 午前10時15分～  
○おなか元気教室(埼玉西ヤクルト販売(株)) 午後1時30分～  
場所 地域包括ケアセンター地域の交流スペース  
主催 鳩山町、介護フェア企画会  
問合せ 町地域包括支援センター ☎ 296-7700

### 認知症サポーター 養成講座

町地域包括支援センター☎ 296-7700  
認知症についての基礎を学び、正しく理解することで、地域で支えるきっかけを作ります。  
認知症サポーターは、特別な活動ではなく、認知症の人やその家族の「応援者」です。これまでに、小学校や短期大学の学生、ボランティア団体、介護施設などで養成講座を行ってきました。こどもから大人までどなたでもご参加いただけます。  
講座をご希望される場合は、町地域包括支援センターにお申し込みください。

### 鳩山町地域包括支援センター

☎ 296-7700

認知症のご本人やその家族を支援するための総合相談の窓口です。  
認知症に関する相談や、認知症の心配があっても医療や介護サービスの利用ができず困っているなど、専門職がさまざまな相談・支援対応を行っています。



お気軽にご相談ください！



町地域包括支援センター  
たなか さとこ  
田中 諭子 さん

町の認知症初期集中支援チームで、初期段階での早期発見・早期治療を行えるよう支援。認知症サポーター養成講座のキャラバンメイトも務め、相談・支援を行う。

### 「鳩山町認知症ケアパス」を配布しています

認知症を発症したときから、日常生活を行う上でさまざまな支障がおこります。認知症は、必ずしもみなさんが同じよう進行するわけでもなく、同じような症状がでるわけではありません。  
町では、認知症についての見通しが必要になったとき、情報収集のための参考冊子として認知症ケアパスを作成し配布しています。

認知症ケアパスとは、認知症の進行とともに変化していく状態に見合った医療や介護などの支援を受けられるように準備しておくためのツールです。  
認知症ケアパスは、町地域包括支援センターで配布している他、ホームページに掲載しています。

